



万宝 国花  
 日本居家秘用  
 香花 種植 世五

78
1
5

日本居家秘用



日本居家秘用卷七月録

○種植

け部片樹本乃植や接  
本乃法草花をけ物乃  
水果乃や  
草木れ虫乃はるる  
まを紙みる

○香

け部片香乃はるるや香  
け乃必乃用ひや  
羅乃目利乃まや  
燧物乃方線香の法  
や香道具の式



居家秘用

瓜 瓜 瓜

○花

此部より花乃切やうたぐ  
ハハやうとてやうとて  
花紙 花紙 花紙 花紙 花紙  
瓜 瓜 瓜 瓜 瓜

日本居家秘用卷七

○檀植

▲これより果実ハ今令熟せど  
味時ふおゆるし十分熟し  
てとまらば来年盛血あり  
▲これより果木伐採りしは肉燥  
と枝移ぐ強うかひて  
まうらうとまらばの枝ふ類  
可也 同上

▲梨と冬月枝毎ふたのりて  
常小解ぶとよく実成むしよ

一切の草木の虫歯部根を  
焼て其を灰に皆を灰

▲甜瓜の核皮おろすとよみお  
一日砂糖或ハ白粉の肉皮  
水お浸し瓜乃子皮うの水お  
浸し一宿してお出しまけ  
ハア味味紙に

▲草麻子皮挫りし居宅乃  
塵灰を此葉を遍し挫り  
よく成血なり

▲茄子れ本回五本とハ毎日

茄子七の八を取植やう

うの法ハ毎年九月お先よ紀  
地を廣さこ二尺四方深さ二尺  
ふりりてうの内へ糞を一たい

いきて十一月十二月の比ふい  
りて糞乾乾て半分ほどふ  
なりしう時溝の泥を糞の

毎うしうほど入正月ふい  
て又半分ほどふるう時園圃  
の好古を又毎うしうほど

たし四五日を経てうの糞

去(い)ぬとわ(わ)く下(した)へま(ま)死(し)か(か)る(る)一  
 取(と)りし(し)て地(ち)とふ(ふ)ひ(ひ)ら(ら)け(け)暴(はら)い  
 乾(かん)き(き)を(を)う(う)十(じ)日(にち)あ(あ)ま(ま)り(り)し(し)て  
 又(また)別(べつ)乃(の)好(こう)去(き)を(を)と(と)と(と)あ(あ)の(の)せ(せ)と(と)  
 ち(ち)乃(の)四(よ)へ(へ)い(い)ま(ま)埋(う)め(め)地(ち)と平(へい)均(ぐん)  
 ら(ら)し(し)め(め)去(き)二(に)月(げつ)彼(か)山(さん)岸(がし)乃(の)時(とき)ふ  
 ろ(ろ)の糞(ふん)去(き)を(を)耕(か)り(り)し(し)種(たね)を(を)下(くだ)し  
 そ(そ)れ(れ)苗(なへ)五(ご)六(ろく)寸(すん)を(を)お(お)り(り)ふ(ふ)な(な)り(り)た  
 塚(づか)と(と)死(し)ろ(ろ)の(の)中(なか)よ(よ)て(て)よ(よ)く(く)か(か)り(り)  
 そ(そ)う(う)状(じやう)立(た)本(ほん)跡(あと)は(は)な(な)ら(ら)ず(ず)し(し)て  
 好(こう)換(かん)せ(せ)ら(ら)る(る)や(や)う(う)ふ(ふ)す(す)な(な)ら(ら)ず(ず)の(の)

余(よ)乃(の)苗(なへ)ハ(ハ)ま(ま)く(く)後(あと)さ(さ)り(り)て(て)他(た)  
 圃(ほ)ふ(ふ)種(たね)々(々)一(いち)本(ほん)の(の)苗(なへ)一(いち)尺(しゃく)ふ  
 す(す)ぐ(ぐ)ら(ら)早(そう)朝(あ)日(にち)出(い)る(る)お(お)ふ  
 下(した)れ(れ)確(たしか)黄(わう)乃(の)赤(せき)張(ぢやう)師(し)あ(あ)り(り)て  
 苗(なへ)の(の)と(と)ふ(ふ)う(う)り(り)か(か)ら(ら)な(な)ら(ら)ず(ず)一(いち)尺(しゃく)去(き)  
 し(し)め(め)た(た)り(り)  
 ▲五(ご)本(ほん)代(だい)構(かま)ふ(ふ)つ(つ)ぎ(ぎ)ハ(ハ)又(また)采(さい)乃(の)実(み)大(だい)  
 な(な)り(り)と(と)本(ほん)草(そう)細(こ)目(め)ふ(ふ)尺(しゃく)を(を)さ(さ)り(り)  
 ▲桃(もも)乃(の)本(ほん)ふ(ふ)本(ほん)の(の)枝(えだ)は(は)ぎ(ぎ)り(り)  
 知(ち)り(り)て(て)本(ほん)一(いち)本(ほん)の(の)本(ほん)ふ(ふ)桃(もも)の  
 枝(えだ)は(は)ぎ(ぎ)ハ(ハ)桃(もも)本(ほん)と(と)あ(あ)る(る)

▲無葉の枝時ふ熱く湯ふ浸  
し湯のさしりもぐて五日ふ干  
してまけハ虫くつれ

▲樹木伐接しは南ふ向して  
下ふあり枝伐はハ実伐む  
まふ事おほし

▲れよそ花果の木より麝  
香りの余乃清香乃氣強  
いじ果伐さくろしん蒜並張  
ら由る

▲蜜柑の木乃根ふ風埋りバ

▲胡桃乃枝を柳の葉ふは多  
ばは死やとくして実のつり  
そや

▲柿乃木小根の枝をほがバ  
令桃とかり

▲法木依不枯んとしるふは  
急小地工之寸湯不何ふ取不  
灸よるしおけハいふり

▲正月中旬小木樺様桃黄  
薔薇をほぐるし正月下旬  
小桃梅杏李臘梅梨栗

標栗楊柳紫蒔薇を接

ぐ二月下旬小橙橘を接

ぐ今右乃花菓小十二月

乃回小糞穰をそとるは去

小いそりて花果自然小盛

なり

▲杏根アモモを浅く大あつ石炭

根小まじれねととまれば

花成血小果成結ぶよろり

人定歩小まじれその盛盛あり

▲蒔鉄 此空濕紙ねそろる

日江葉よとほひ四月新葉を

けまら時田葉紙わらぐこ

濕小あつれば朽涸急小折ら

而をそつりまを根ねなれたも

よくせりそのあり根ねんとよら

時片鉄屑をこへと久又老月

根のわさつと一尺とろり薄紙

のり鮮葉乃液汁あるひり

糞汁液そがるる古法れ

訂打ハ今ねそらひに

▲木よそ麻ネリは麩イヤ香クウ炭タン良家

是ふうりまは一帯も収め

▲標の本二年にこれより一月

小大たり推して本派とて

多節取おこくまは実の縁こ

とおほしといふ

▲又標のまがれまは庚

汗取根ふまぐらうり

▲竹根うりうり根ふ死掃

埋りよ

▲草取うりうり一池の

投種身より植ぐらうり

とれぬ小変じまは糞

油賦をいじち死に服をこ

そり

▲松を水果候うりうり

糞取用むらうり大木桐油

いじち池の中瓶罐乃舟小

いまは水果終くわ

▲山小厄子候わぬ極て

用ひる一里小極うり八



山用乃一葉小紙用乃一紙

香家秘用紙

○香

▲名香は紙ハ唐紙を用

今一馬子紙不はむむ

馬子紙不はむむ

香ハ紙不はむむ

ハたとう紙不はむむ

▲香炉乃灰不池乃部一紙は

と無紙不一紙

用やまは火久一

▲火よの紙香ハ

紙一又香れ上包不

香家秘用紙

を用ひるゝにうつり香りの  
をれありと香炉の火は  
此を知らず扱れ方小香紙  
をさす

▲火あひのこんの糸指紙あ  
はらふ焼くして持紙置く  
はぐりあり紙うと紙をさす  
うの中むくく何くありは  
く又香紙はがさ方附ふま  
顔ふ下のふ火氣のあゝる  
はぐりあり

▲野指あはれ伽羅紙をさす  
香炉をたけ時火繩を五六  
分ほどに伽羅紙うのす  
ふたさこ火口ふ火紙  
は紙す小伽羅維へ火うはり  
竹火繩あはすうと

▲伽羅維乃香紙また紙やハ  
香紙のトへ竹乃引粉紙  
あはたくるすうと  
そしと十とう小ま

▲伽羅紙久しくたし法

黒砂糖を水にて移り竹の皮を入よ冬寒しうの寒

しそろ竹乃皮おて伽羅木

くはくを壺お入蓋をして

香乃一昔年成好をも括

てはくろ角一香ハ好もふ志

たがふ

▲伽羅木衣服ふとむもは

乳銀灰を湯沸しせぶ

かろ間を八襪又ハ袖を濯

つらふ拭てふとてと

むんぐとくとゆる

▲沉香 袂空して水ふ志ら

むもれ灰ととに交趾乃産

暹羅乃産ハ公鷄乃彪小似

て香とよくろの次あり太泥

乃産ハ本理相遠り状ハ

美なるまじしとろの香よく

以在城乃産ハ白黒はらり  
 鶏乃魁小似く香よりり  
 を年中萃乃和よとよあり  
 一書小曰唐船長崎へ伽羅  
 後止は皆壺小水を入て伽羅  
 を液して持ある是は日本  
 人水より揚て乾れあり伽羅  
 水小漫さまは香氣あり  
 也小日本すてと水小澄て  
 来よりあり然まは本草  
 小い一源水香小難ひあり

されあり沉香ハ水小澄て  
 してろの巾櫃小入て液  
 香氣をとろふれとけりこ  
 まは本草乃蜜香あり

▲薰物乃方

たそうれ

- 一 沉香 四兩 藿香 一五
- 甲香 二五 白芷 一五

右らろこまは沉乃燒か紙入  
 白蜜紙より湯を煮して移り  
 あり

山路乃方

一沉香 四錢 丁子 二兩 薰陸 一兩  
白且 一兩 麝香 一分 甲香 一兩

梅花乃方

一沉香 五兩 丁子 三兩 甲香 二兩二分  
白且 一兩 車松 二分 藜蘆香 一分二分  
薰陸 三分 生木香 二分 麝香 三分  
龍腦 三兩

一薰物 灰合 合 合 合 合 合 合 合 合 合  
一合 合 合 合 合 合 合 合 合 合  
一合 合 合 合 合 合 合 合 合 合  
一合 合 合 合 合 合 合 合 合 合  
一合 合 合 合 合 合 合 合 合 合

よれよれ加減おあらせとこれ  
五分ふたりはせとこれ

香道具圖

香炉



香炉の形いろいろありまの好  
ちふふるや或ハ丸又ハ角又ハ  
三角又ハ菱形六角八角地  
すの形もいろいろありまの好  
ハ香炉管ハ入派香炉あり  
書院香炉ハ各別なり

香炉



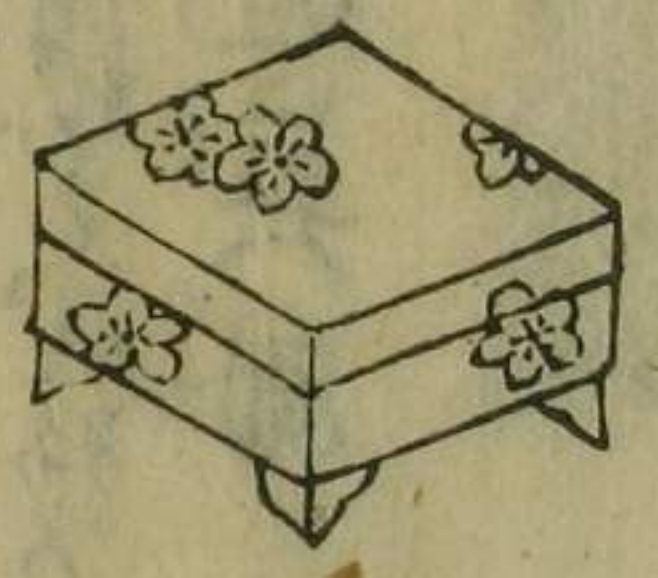
香篋乃形と云をぐあり塗  
やうと云れぐあり或ハツの紅  
或ハツの朱五久い系金銀か  
かひ蔀絵うの敷子茶なり

重香篋



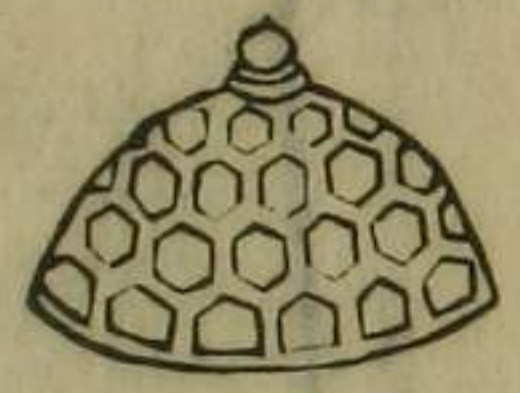
是は重香篋といふ下ハ焼  
入なり中ハ伽羅入上ハ金香  
かり

焼が入



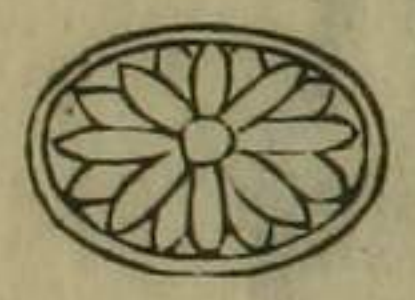
是と云はと結やうと云くあり

透蓋



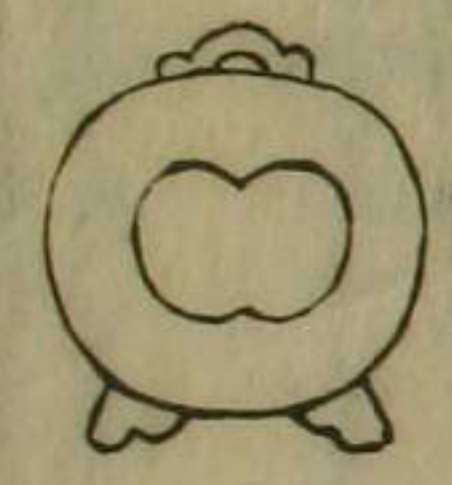
あこめさち  
細月抄月  
あこめさち  
と云

打敷



是といふ  
ありふさ  
敷ふ十片  
りつかり

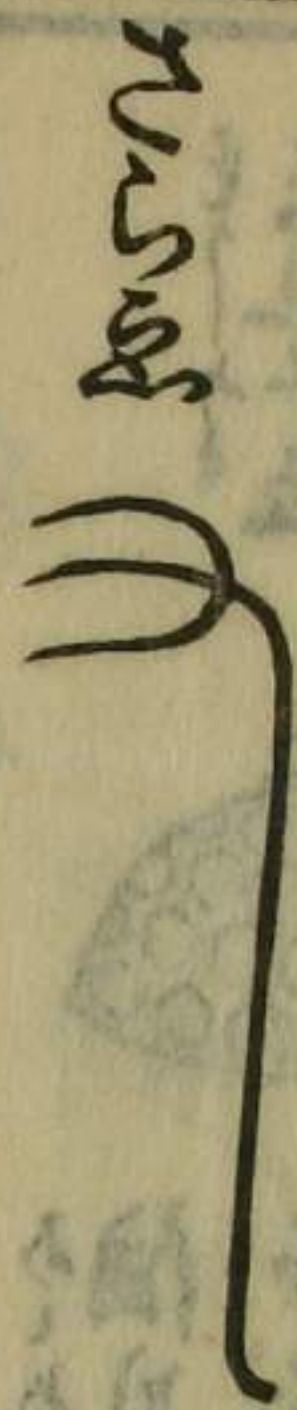
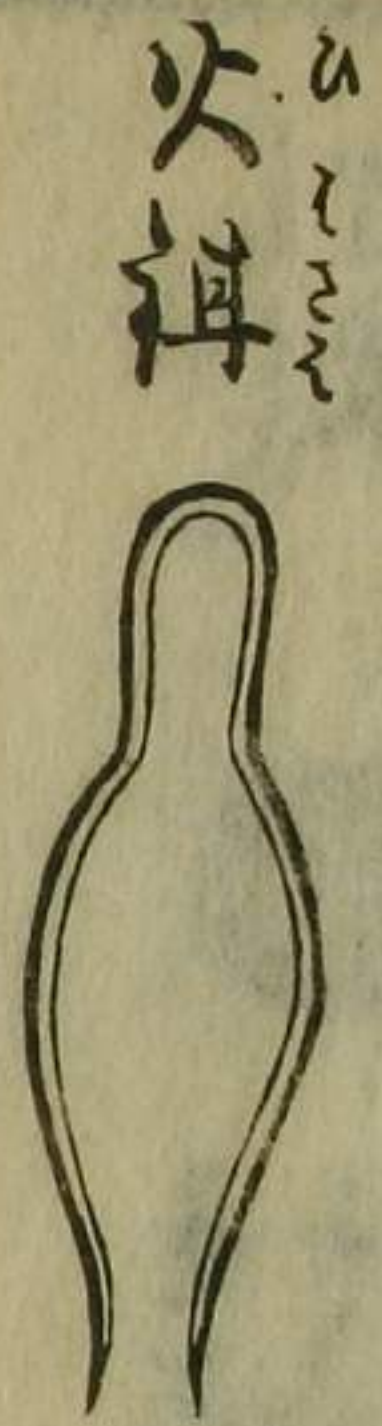
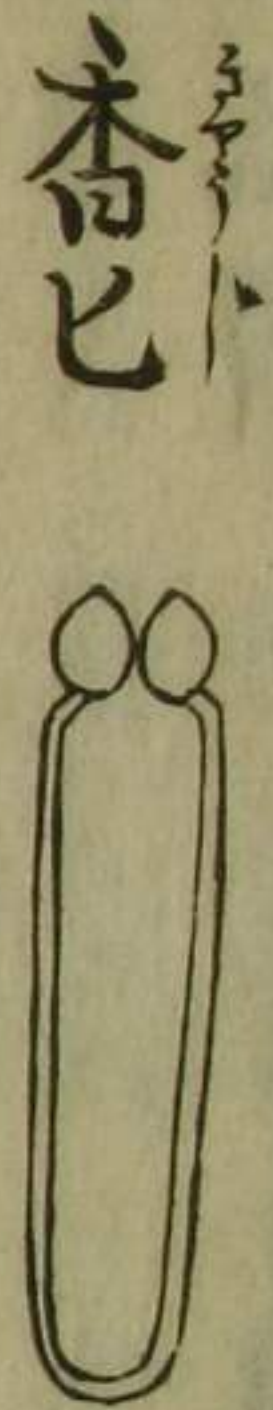
火取



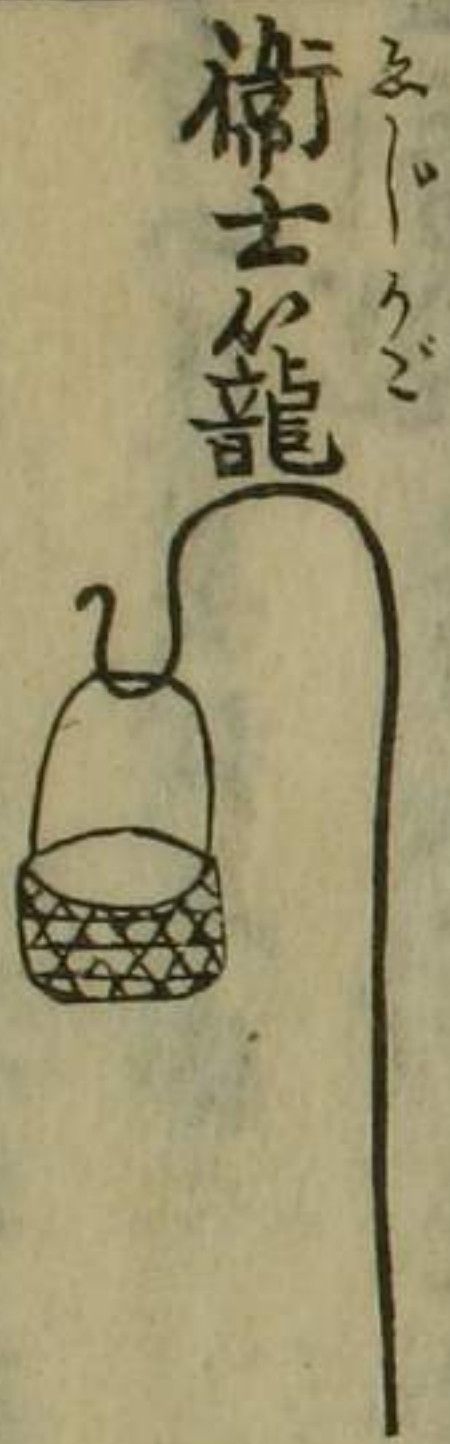
灰押



是とてりくわく或ハ地植  
入ハ種冊形又ハ紙形あり



ほむしんせせかろく



▲香炉器乃大小ハ好小者  
ハ蓋とやろ蓋とせ  
式ハこん蓋少ととん  
やととろくかろ  
善具砂粉好ふ順ふ

或ハ香盆かうげん成なりけけこのぶく  
ころとあり

▲沉香じんこうと大おほハほ小こ須す之の

大おほハほ香かう部ぶ箱はこ乃の寸すん法ぽう

是こゝハこゝけけと小こ香かう盆げん成なりのの分ぶん

けけとと下したへハへ香かう部ぶ香かう包ほうを

介すま小こ道だう具ぐ成なり入い派はい

▲香盆かうげんと寸法すんぽう以もてて給たまひひ給たまははり

とといいふふととありあり

▲香かう着ちやくハハいいろろくくああららとといいふふ

高かう秘ひ庫こ者しやく代だい用よう也なり

○花

▲花はなハハ月げつ成なりとといいふふとといいふふ

意い成じやく也なりとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふ

とといいふふとといいふふとといいふふ

▲花はなハハ月げつ成なりとといいふふ

花はなハハ月げつ成なりとといいふふ



乃多<sup>おほ</sup>のんこ<sup>こ</sup>ふれと<sup>と</sup>は杖<sup>つゑ</sup>冬  
 此<sup>こゝ</sup>ろ肥<sup>こゝろ</sup>土<sup>つち</sup>灰<sup>ひ</sup>を<sup>を</sup>根<sup>ね</sup>ま<sup>ま</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>は  
 瘠<sup>せむ</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>ま<sup>ま</sup>ふ<sup>ふ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>花<sup>はな</sup>お<sup>お</sup>ほ  
 くり<sup>くり</sup>に<sup>に</sup>小<sup>こ</sup>盛<sup>さかん</sup>け<sup>け</sup>り<sup>り</sup> 居家<sup>いけ</sup>必<sup>ひ</sup>備<sup>び</sup>  
 ▲冬<sup>ふゆ</sup>月<sup>つき</sup>瓶<sup>びん</sup>中<sup>ちゆう</sup>に<sup>に</sup>水<sup>みづ</sup>油<sup>あぶら</sup>の<sup>の</sup>炸<sup>ちやく</sup>灰<sup>はい</sup>  
 を<sup>を</sup>少<sup>すこ</sup>瓶<sup>びん</sup>中<sup>ちゆう</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>き<sup>き</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>炭<sup>すす</sup>黄<sup>わう</sup>  
 を<sup>を</sup>入<sup>い</sup>酒<sup>しゆ</sup>も<sup>も</sup>一<sup>いっ</sup>回<sup>かい</sup>上<sup>じやう</sup>

▲海<sup>うみ</sup>棠<sup>たう</sup>花<sup>はな</sup>は<sup>は</sup>荷<sup>か</sup>荷<sup>か</sup>水<sup>すい</sup>を<sup>を</sup>以<sup>も</sup>  
 是<sup>こゝ</sup>に<sup>に</sup>浸<sup>ひ</sup>せ<sup>せ</sup>ん<sup>ん</sup>に<sup>に</sup>一<sup>いっ</sup>回<sup>かい</sup>上<sup>じやう</sup>

▲草<sup>くさ</sup>花<sup>はな</sup>乃<sup>の</sup>赤<sup>あか</sup>と<sup>と</sup>白<sup>しろ</sup>と<sup>と</sup>一<sup>いっ</sup>本<sup>ぽん</sup>小<sup>こ</sup>挿<sup>さく</sup>  
 盆<sup>ぼん</sup>に<sup>に</sup>白<sup>しろ</sup>ハ<sup>ハ</sup>必<sup>ひ</sup>ず<sup>ず</sup>盛<sup>さかん</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>は

▲草<sup>くさ</sup>花<sup>はな</sup>灰<sup>はい</sup>神<sup>しん</sup>小<sup>こ</sup>挿<sup>さく</sup>り<sup>り</sup>下<sup>か</sup>下<sup>か</sup>  
 灰<sup>はい</sup>産<sup>う</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>水<sup>みづ</sup>湿<sup>しつ</sup>滞<sup>たい</sup>  
 する<sup>する</sup>は<sup>は</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>或<sup>ある</sup>ハ<sup>ハ</sup>産<sup>う</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>は<sup>は</sup>若<sup>わ</sup>草<sup>そう</sup>砂<sup>さ</sup>  
 小<sup>こ</sup>石<sup>いし</sup>灰<sup>はい</sup>入<sup>い</sup>家<sup>か</sup>と<sup>と</sup>す

▲枝<sup>えだ</sup>乃<sup>の</sup>大<sup>おほ</sup>き<sup>き</sup>の<sup>の</sup>花<sup>はな</sup>灰<sup>はい</sup>粉<sup>こな</sup>を<sup>を</sup>六<sup>む</sup>六<sup>む</sup>  
 筒<sup>つつ</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>き<sup>き</sup>り<sup>り</sup>小<sup>こ</sup>ハ<sup>ハ</sup>筒<sup>つつ</sup>の<sup>の</sup>中<sup>ちゆう</sup>に<sup>に</sup>松<sup>しょう</sup>皮<sup>かわ</sup>  
 と<sup>と</sup>小<sup>こ</sup>石<sup>いし</sup>を<sup>を</sup>ま<sup>ま</sup>き<sup>き</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>灰<sup>はい</sup>を<sup>を</sup>  
 ま<sup>ま</sup>き<sup>き</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>花<sup>はな</sup>が<sup>が</sup>わ<sup>わ</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>生<sup>な</sup>  
 ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>は

▲草<sup>くさ</sup>花<sup>はな</sup>乃<sup>の</sup>鉄<sup>てつ</sup>灰<sup>はい</sup>い<sup>い</sup>じ<sup>じ</sup>を<sup>を</sup>れ<sup>れ</sup>は<sup>は</sup>  
 竹<sup>たけ</sup>器<sup>き</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>き<sup>き</sup>り<sup>り</sup>て<sup>て</sup>切<sup>き</sup>る<sup>る</sup>

▲花紙を方へれたるは葉  
乃葉紙葉乃四と下ふ花れ  
はひ花を初を係やうふはへ  
しかくれおとまればはく日紙  
ふき

▲たよそ牡丹芍薬蓮花乃類  
紙ふこまへん早晩ふ者なう  
らば巳の時申の時ふいさうそ  
ち芳ふがうまはを易かうは  
▲牡丹は花紙をうは意ふ切  
らうまのまばいさうか

▲蓮河骨紙拵棟木の水草  
乃花紙をうはま川根紙系  
ふてらうらうのち紙切を水  
紙ふくまうへくまはまは

▲花乃花紙けうふ酒紙少  
加つまはよく水紙何なる

▲水仙堂茶葉ハ切紙ぬき紙  
ふはひう又ハ折の筒ふ入桐  
の箱ふく紙ふくまう風  
の入ざらやうあうわさくハ之  
十日五十月をそとねん堂

方へたらくあそびかくのごとく  
なり

▲室中の花ハ昼ハ床へ出  
夜ハ炉邊の辺下小室  
より一昼も室甚くしてこ  
ゆるやどあつた氷の中ぬか  
どのあふあふ

▲暑氣の時分ハ切く水紙  
かえくよ一若きを方より  
茶のくくつら花志月をわらた  
浴ハ冷水小入量ハいた出る

そのなり

▲梅棧水仙つばきすいせんも室へ入て切つら  
まろけはよほどふくれら流  
がとあつてはいづららそのと

▲花瓶くわびんも水紙すいしよりけは甚  
あつた瓶のちらふあつた紙

て水紙はぐら一ちらちらさ  
れなごふ水紙入てとさか  
れいさだよくくく一冬ハ内  
猫ねこもはぐら一

▲草花ハさうなぬ小持こもちも乃

花ハ堅いふと山の中の事事  
なりつさまどともし見合り久  
一つ社若の類ハ定まるるは



日本居家秘用卷七終

